

令和6年度 地域おこし協力隊 実績報告書

地域おこし協力隊 春澤 菜



活動概要

道南スギをはじめとした地域材の利用促進をミッションに、この1年間、地域おこし協力隊として以下の活動に取り組んだ。

- iroMoriの運営と施設活用の促進
 - 施設の運営体制を整備し、道南杉を活用した空間作りを推進。
 - イベント開催や町内での活動を通じて、町内外の人々への認知度向上を行なう。
- 木育活動の推進
 - 町内外の学校・教育機関と連携し、子どもたちに木の魅力を伝える授業やワークショップを実施。
- 地域交流とデザイン活動
 - 森高校デザイン部（仮）の運営を行い、高校生の放課後の居場所を提供。
- 新規プロジェクトの開発
 - 地域資源を活用した蒸留プロジェクトをトライアル実施し、今後の展開を模索。
 - ロボコン出場の経験を元に町内での開催を視野に入れた活動を進める。

実施した活動

◎具体的な活動内容とその詳細

iroMoriの運営



- 前年度末に主要メンバーが退任し、2名体制で運営を継続することになった。
- 機材の習得をしながら、町民向けイベントの企画・実施を進めた。
- 施設の整備を進め、道南杉を活用したシンボルツリーの制作を行い、より親しみやすい環境づくりに取り組んだ。
- 情報発信の強化として、Instagram、Facebookのアカウント開設、Googleマップへの登録、役場HPへの施設案内掲載、HPの情報整理やカレンダー機能の搭載を実施。
- 施設利用者の増加を目的とし、定期イベントや体験ワークショップの開催を企画。
- 町内外の学校・教育機関と連携し、木育授業のプログラム化を進める。

iroMori利用者対応

- カリンバ制作サポート
 - 持ち込みのカリンバ制作キットをiroMoriの機材を使って制作。
 - 道南杉のストックを活用し、バンドソーでカットすることでオリジナルの土台部分を製作。



- イベントノベルティ制作

- イベントの協力者へのお礼として、レーザーカッターを活用したノベルティを作る町民をサポート。



- 見学対応

- 札幌市立大学の古俣ゼミによる訪問を受け入れ、林業体験ツアーを実施。



- 函館市内のスターバックス店長4名の訪問対応を行い、道南杉のランタン製作ワークショップを開催。企業とのコラボレーションの可能性を模索。



- 高校生や大学生の地域おこしインターン受け入れを継続し、教育機関との連携を深める。



木育活動

- 森町内の教育機関と連携し、木育授業を実施（計7校）

森高校

- 住生活デザインの授業として、道南杉を活用したプロジェクトを実施。
- ウッドデッキの拡張を行い、学校内の憩いの場として機能するよう設計・施工。
- オリジナル家具作りでは、生徒が自身のアイデアをもとに設計から制作までを体験。



砂原中学校

- 砂原支所の木質化プロジェクトの一環として、支所内の空間を木材で温かみのあるものにするワークショップを開催。
- 生徒たちと意見を出し合いながら、町のシンボルとなるような装飾や木製オブジェを制作。
- 待合スペースのベンチを道南杉を使って生徒とともに制作し、公共施設の木質化を進める取り組みを実施。



さわら小学校

- 低学年向け：「五感を使った木材体験」をテーマに、木の質感や香りを学ぶワークショップを実施。どうぶつパズルのデザイン体験も実施。
- 中学年向け：「道具箱づくり」に挑戦。木材の特性を理解しながら、実用的なアイテムを作るプロジェクトを行った。
- 高学年向け：外部協力（一般社団法人kiki）と連携し、「道南杉を使った写真立て作り」を実施。事前に町のおすすめスポットを調査し、授業当日に紹介しながら制作を進めた。



鷺の木小学校

- 3・4年生の図工の授業に協力し、トンカチやノコギリの使い方を学ぶ機会を提供。
- 生徒が木材を切ったり、組み立てたりしながら、実際に手を動かしてモノを作る楽しさを体験。
- 別プロジェクトで滞在していた自由学園高等部の生徒ともコラボし、異なる年齢層の学びの場を創出。



さわら幼稚園

- 絵本「わたしのワンピース」をテーマにした木育授業を実施。
- 道南杉で作ったミニうさぎを持ち、園庭で景色に合わせたワンピースデザインを考える活動を実施。
- その後、室内で「自分だけのワンピース」のお絵描きを行い、発表の場を設けた。



駒ヶ岳保育所

- おたのしみ会にて、「駒ヶ岳のフォトスタンド」づくりワークショップを開催。
- 木材のパーツを組み立てる作業と、レーザーカッターを使って名前を印字する工程を体験。
- 先生方と協力しながら、スムーズに進行し、子どもたちが自分の作品を完成させる達成感を味わえた。



こひつじ保育園（学童保育）

- 前半は株式会社ハルキと連携し、工場見学を実施。丸太が住宅用の木材になるまでの過程を学ぶ。
- 後半は「スギ玉を転がす道づくり」という工作体験を行い、木材の端材を活用した遊びの要素を取り入れる。
- 最後に各グループの作品を繋ぎ合わせ、大きなコースを作り、完成した道をスギ玉が転がる様子を楽しんだ。



木育イベント運営・協力

- 木育フェスタ（10月開催）：参加者約210名、音楽や食とのコラボレーションにより滞在時間が長く、満足度が高いイベントとなった。



- クリスマス木育ワークショップ（12月開催）：町内小学生9名が参加し、道南杉のランタン作りを体験。アンケート結果からも満足度が高く、今後の展開の可能性を示唆。



- 権現山内浦神社 植樹祭（10月開催）：砂原神楽会の子供たち17名と御神木であるカシワを含む3樹種の植樹を実施。



- 木育花育イベント（11月開催）：花と木を使ったものづくり体験を通じて、五感を刺激するプログラムを提供。



その他の活動

- 蒸留プロジェクトのトライアル

- 地域資源の活用として、町内で捨てられてしまう木の葉からアロマオイルを抽出する実験を実施。
- 地域おこしインターンの学生と共にカラマツの新芽の採取と、実際の蒸留プロセスをトライアルとして体験。



- 森高デザイン部(仮)

- 森高校マルチメディア室での放課後活動を通じて、道南スギを素材としたレーザーカッター体験やデザイン活動を支援。
- 単なるものづくりの場を超え、学年や部活動の枠を超えて交流が生まれる『居場所』へと発展しつつある。



- ロボコン出場

- VIVITAロボコン全国大会（福岡開催）に道南杉を活用したロボットで出場。
- 参加者から「杉のロボットがユニークで良い」との評価を受けた。

- 今後、デザイン部の活動内でのロボコン開催を視野に入れ、計画を進める。



成果と課題

◎達成した成果

iroMori

- 町民との交流を通じたiroMori施設利用の促進
- 企業・教育機関とのコラボレーション拡大
 - 企業連携：1社
 - 高校、大学連携：4校

木育活動

- 教育機関との連携強化による木育プログラムの充実
 - 町内7つの教育機関で木育を実施

森高デザイン部(仮)

- 17回の放課後活動を実施

◎発見した課題

iroMori

- 施設利用の拡充

- イベント等コンテンツの更なるブラッシュアップ

森高デザイン部(仮)

- 参加者増加に向けた新しいアプローチの導入
- 地域企業や町民とのコラボレーションを通じた交流
- 学生の制作物を発表する機会を設ける

蒸留プロジェクト

- 蒸留への理解をより深める
- 体制整備と商用化の可能性検討

次年度への提案

- 蒸留プロジェクトの本格展開
 - 町内外でアロマオイルのワークショップを定期開催し、森町の魅力発信強化
 - 女性団体協議会との協力で、森町産の香りを使った製品の開発を進める
 - 教育機関で、授業などでの蒸留の活用も行なっていきたい
- 森高デザイン部(仮)
 - デザイン部の活動をより多様化し、参加生徒の幅を広げる。
 - 例) ロボット制作、アクセサリ制作など
 - 町内でのデザイン展示会やワークショップの開催を検討し、地域住民とも交流できる場を提供。
 - 町民とのコラボレーションを通じて、実際の製品制作やブランディングの支援を行う。

総括

この一年、地域おこし協力隊として様々な挑戦をしてきました。iroMoriの運営に関しては、木工の知識がほぼゼロの状態からスタートし、機材の使い方を学びながら、手探りで運

営してきました。しかしながら、施設の認知度向上にはまだ課題が多く、ただ存在を知ってもらうだけでなく、いかに「使いたい」「参加したい」と思ってもらえる場所にできるかが今後の鍵だと実感しています。

木育活動では、町内外の学校や教育機関と連携し、子どもたちに木の魅力を伝える機会を増やしました。最初は「本当に子どもたちが興味を持ってくれるのだろうか？」という不安もありましたが、回を重ねるごとに「またやりたい！」という声や感想ペーパーを直接もらうことができ、少しずつ手応えを感じるようになりました。

また、自主提案の活動として、デザイン部の活動にも力を入れました。最初は「放課後に集まってくれるだろうか？」と不安もありましたが、生徒たちが「ここがあるから1週間頑張れた」「自分で考えたものが形になるって嬉しい」と言ってくれるようになり、活動の意義を改めて感じました。ただのものづくりの場ではなく、思いを表現できる場、誰かとつながれる場としての価値も生まれつつあることが、何よりも嬉しかったです。

正直なところ、うまくいかないこともたくさんありました。施設運営の難しさ、思うように参加者が増えないイベント、やりたいことがあっても時間やリソースが足りないことなど、それでも「続けていくこと」が何よりも大切だと思っています。試行錯誤を重ねながら、これからも頑張っていきます。

私一人の力ではできないことばかりですが、さまざまな方の協力があってこそ、ここまでやってこられました。

任期の3年まで残り1年と少し。ここからは、これまで積み上げてきたものをさらに発展させ、自立に向けた動きを本格化させるフェーズに入ります。引き続きよろしく願いいたします。